

あろま

2010.4.3.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

西多摩ブロック 春の研究集会の報告から



西多摩ブロック30周年記念の研究集会が、3月20日(土)と21日(日)の一泊二日で行われました。

学年末にもかかわらず、森委員長をはじめ、荒木氏、堀江氏、山内氏・・・等、2日間に延べ人数で25名の参加があり、活気に満ちた集会になりました。

まず1日目は、「30周年記念講演」。講師は西多摩ブロック創設の発起人である堀江氏でした。

西多摩ブロックの産声が上がったのは、東京の西の端、奥多摩町の古里小学校でした。「1979年12月12日、12名の仲間たちで！」と、八丈島の末吉小学校から赴任したばかりの堀江氏を中心に、お互いの授業を見せ合いながら、少しでも子どもたちが賢くなる授業をつくりたい！...と呼び掛け合ったのがその始まり。始まった当時は、体育ばかりか、文学教材作りから学級経営など、誰もが参加でき、それぞれがやりたいことを実践報告しては、みんなで熱く語り合ったそうです。

目の前の子ども事実と実態は...、どんな学力をつけたいのか...、その手立ては...など、記録分析することで、誰もがわかりやすく、より具体的に研究活動を掘り深めたそうです。喧々諤々議論した後は、もちろん必ず飲む！...ここからもう始まっていたのですね。

和田氏や若手のエネルギッシュな先生たちが集まり、算数と体育の古里小独自のカリキュラムづくりが始まりました。しかも、小さい学校だけにほとんどがメンバーです。職員室は、いつも「あの説明で子どもたちはわかったのかな〜。」「今日の授業で、何が教えたかったの？」ときには、授業の真最中に、窓からのぞいていた堀江先生が「そんなんじゃ、わかんないでしょ……！」とチョークもって、乱入することも！ すごい時代もあったものです。楽しくわかる授業づくりに懸ける先生たちのこだわりや情熱は、すごかったのですね。

マット運動、水泳テキスト、ボール運動など、今の西多摩ブロックに続く実践の基がいくつも生まれたのがこの時代だったのです。

堀江先生の話は、何回聞いても元気が伝わってくるのが不思議なくらいです。教員生活の始まりにどんな授業や人と出会ったのか。堀江先生が見てきた 積み上げてきた教師としてのたくさんの財産を学びつつ、さらに研究の輪を深め広めていくことが西多摩ブロック草創の思いを受け継

いでいくことになるのですね。

続いて「ドル平の研究」と題して、荒木氏と和田氏からの提案がありました。

ドル平泳法と近代泳法のつながりの中で、ドル平が「基礎泳法」としての良さがあることは、理解されている。しかし、それが呼吸法がわかりやすい練習方法としての位置づけであったり、近代泳法につながる基礎泳法としての位置づけであったり、ドル平の真価としての位置づけが明確にはなっていない。

呼吸法と一口にいても、そこには頭の動きや腕との関係など、呼吸を促すための頭・腕とのかかわりをどう意識させ、関連づけられるのか。呼吸法でいちばん大事にしている脱力をいかに生み、活かせることにつながるのかで、そこには、呼吸・脱力・姿勢制御の視点としての「呼吸の階層性」があると考えます。

キックにしても、キック本来の意味は何か。ワンキックで身長1・5倍の距離、呼吸約4秒ぐらいを目安とするが、よりリラックスした姿勢制御との関係で、さらに事実を記録し、分析する必要がある。「トーントーン」から、「ポーンポーン」へと言葉かけを工夫することで、キックの水の抑えを感触として伝えようとしたり、さらには、ドルフィンキックの弊害と批判される「まき足」なども足首にどんな動きや意識のさせ方を作れ勢多利する子が必要なのかを分析することが必要である。

ドル平泳法の形だけにとらわれない、一つ一つの動きが意味することをしっかりと検証しながら、初心者泳法としての呼吸法を軸としたドル平を、近代泳法への基礎泳法としての位置づけを明らかにしていくことが、大きく問われているのではないのか。また、問うていく研究が必要である。...かなり難しい話になりました。ともかく、集団検証で事実をしっかりとつかみ、体の使い方、動き、運動としてのまとまりを読み取っていくことが大事。まだ見落としているものがあるはず。荒木先生のコメントが熱く語りました。

2日目。宿泊組は、たっぷりと語り、飲み過ぎ?で、ちょっと重い足取りでのスタート。会場は、八王子市の上川口小学校に移り、「マット・跳び箱・鉄棒」の実技教室でした。講師は山内氏、「今日は、ちょっと転がるのは止めとこうかな〜?」と言いながらも、大事なのは体の使い方だ!とマットに、鉄棒にと実技を交えて進めてくれました。

山内先生といえば、「ネコちゃん体操」。子どもたちも楽しそうにやるからと、つい形だけを追い、準備運動の感覚でやってしまいがちなのですが、実は、ネコちゃん体操にもいろいろあると、2人の子どもが同時に行うネコちゃん体操を見せてもらいました。

視点の位置、足首の持ち方、肩・腰からのひねり...、どれも見過ごしてしまうような動きなのですが、みんなちがうのです。それを見て「この子は、足かけ回りがもうできている。」「この子は、まだだね。」というのです。

運動の起こし方、体の使い方が、これからさせたい運動にどうつながっているのか、腕の着き方でも、肘が外向き・内向きで体の締め方がちがうのですね。特に、足かけ後転で回転して体を起こす時の締めにつながる。そこが必要!というのです。

「体が硬くて前屈ができない」いや体の硬い人なんていない。どこを曲げようとしているのかで、体の曲げ具合はちがう...とあって、目の前で「あれ??!」と驚くような実体験も。体でわかるってやっぱり凄いですね。そばで見ているだけでも驚かされました。

ああいうふうにやれば、子どもたちは喜びそう！できるようになりそう！と、形を真似しても、形だけうつしても、意味がない。体でわかってはじめて、本当のできるにつながるわけです。体育で育てたい学力とは何か、と反省しつつ問い直すことが必要だと感じさせられました。

ネコちゃん体操の「ねこちゃんが、にゃーおん！」「グーラングーラン」「アンテナさんがピーン！ポキッ！」...、その時の、その運動のどこを大事にしたいのかがわかるような指導の目を養う必要があるのですね。

最後に、山内氏いわく。「ネコちゃん体操」をつくった時には気づかなかった大事なことが、最近わかってきた。まだまだ見えないことがある。ネコちゃん体操はさらに進化し続ける！

今回の研究集会、忙しい時期でしたが、やっぱり参加して良かったなと実感しました。荒木氏が、力説していらしたことは、やっぱり実技で確かめること。言葉では、聞く側の勝手な理解で終わってしまう。また聞く側の力量で受け止め方がちがう。だから、体を通して確かめること、感覚でとらえることが重要！そして、いつも「どうして？」という課題意識をもって事実を検証し、みんなで確かめ合っていくことが本当の研究である。研究には、もういいはない、止まらない！だから、研究会に参加したら、何かつかんで、次につながることを大事だ！研究に向ける想いは、今もってさらに熱く...でした。大いに感化されました。ありがとうございました。そして、参加者のみなさん、本当にご苦労様でした。じかに研究に向けて、さらなる前進を！！

参加された方の感想から

昨日今日と大変勉強になりました。本当に有難うございました。研究は限りなく進化するものだと痛感しました。

水泳、器械ともに各文化の技術特質を理解し、「教材で何を教えるのか」「教材の順序性はどのよう整理すれば良いのか」を明確にした上で、子どもの実態に応じて適切な指導をする事が必要な事がわかりました。子どもができるようになるか否かは、教師の理解の問題だと反省させられました。

西多摩サークルが研究を企画・運営してくださった事に感謝します。講師の先生方も有難うございました。

(Aさん)

・「ねこちゃん体操」からどう発展して、何ができるようにするのか、そして、その時どこをどうしたらよいのかが、よくわかりました。その時に、その教材や、その運動の固有のしくみとはたらきも、おさえていく必要があると思いました。

・今日学習したことを、もう一度自分の中で整理して、それを子どもたちに返していけるようにしたいと思います。

・自分については、子どもたちが示す事実から学ぶ姿勢を忘れずに、疑問に思ったことは思い続け、研究・探求していかなければいけないと思います。

「継続は力なり」「有限実行」

子どもがわかってできるのを、子どもが実感できたらいいなと思います。

(Bさん)

今日はありがとうございました。

改めて身体の使い方の重要さが分かりました。また、ねこちゃん体操が様々な技への発展へつながる事が再認識できました。

後転、側転、鉄棒などと、技の系統性が実によく分かり、大変勉強になりました。

来年度5年生を担当するので、ぜひここで学んだ事を生かし、子どもたちに伝えていきたいと思います。

(Cさん)

1.山内さんの研究と指導力アップに感動しました。

2.久しぶりのマット、鉄棒運動で、この指導方法をうまく使えるようになれば、クロスカリキュラムが使えるようになるのではないのでしょうか。

3.意識焦点が凄くハッキリして、指摘の妥当性にビックリしました。

4.物凄く合理的論理的指導に感謝します。

5.研究は終わりではなく、今後の研究の発展を期待します。

6.結果的にリラクゼーションの指導がうまい。

(Eさん)

実際にやってみて、できる感覚を子どもにもたせたいと強く思いました。

体幹をどう考えるかを実践しながら確かめたいと思います。

(Gさん)

“技術の構造のつながり”

器械運動の“クロスカリキュラム”は、迷路のよう、又は複雑に入り組んだ地下の洞窟のようです。その入り組んだ迷路も、よく理解すれば、どこからどこに続く道かわかってくるものですね。“アンテナさんの用意”から後転倒立やバック転に次々につながっていくルートを発見する授業はとても楽しいものでした。もう少し極めてみたいと思います。

(Dさん)

アンテナさんと技の結びつけ方がよくわかりました。4月からすぐやります。

4月から初の学年主任になりそうなので、学年で(できたら学校づくりに)実技指導研修をやろうと思っているので、「がんばろう」と思えました。

運動の合理性と昨日の話にあった技術の中にある社会性を、また子どもたちといっしょに追及していこうと思います。

山内先生、西多摩ブロックの先生、ありがとうございました。

(Fさん)

マット、跳び箱、鉄棒について
本日はありがとうございました。

ねこちゃん体操の動きが、いろいろな所で使われることがわかりました。どの動きがどの種目に使われるのか、自分でも整理したいと思います。

次は6年生を担当するのですが、6年からでも「ねこちゃん体操」を行っていききたいと思います。

僕自身も練習していきます。

(Hさん)

研究は“おもしろいもの”です

好奇心、探究心を旺盛にして、これでもか、これでもかと目の前の子どもが示す事実の“なぜ”を考えていきたい。

- 久しぶりの山内さんの指導から -

器械運動の特質は回転技術にあるが、その基本姿勢は立位と倒立の鉛直方向の重心の位置認識。それに支持点を中心にした回転モーメントの創出にあり、そこに「動的」な回転が生まれる。立位からは片足平均立ち、倒立位の肩倒立からは回転やあふり、はねにおける重心の位置制御が頭位確保を含む腕との協応が大切になる。アンテナさんの今日の動きに回転方向での足の前後あるいは開きがあれば、より有効性は発揮されると思った。それは、ふみきりからの足のそろいや片足のばしの前・後転、側転やハンドへの姿勢制御を容易にすると思われるからである。

場、教具、教材づくり、これを山内さんならではの技術学習の一部であることを知っておきたい。

問題は、ネコちゃん体操で教えられることと、その技でしか教えられないことの関係性の認識であろう。

30周年の学習は、15名程で2日間行った。講師の堀江さん、荒木さん、山内さんには、心から感謝です。

*水泳は実技ができなく(やらなく)、どこかでもう一度設定したいと思います。

(Iさん)

西多摩ブロック4月例会のご案内!

新学期「学級づくり」事始め



日時 4月17日(土) pm 1:00 ~

会場 あきる野市屋城小 042-558-1128(渡邊)

持ち上がり、クラス替え、または新しい学校で、子どもたちとの新しい出会いの始まりです。キラキラ輝く子どもたちと、今年はどんな願いで、どんな仲間づくりを掲げてスタートしましたか。

まずは、新年度の学級経営案づくりから…。学級、子どもたち、学習…の新年度計画。みんなで交流し、深め合いましょう。案、各自用意!

*西多摩ブロック研究会、ご協力ありがとうございました。